

第15回岡山県経済戦略会議概要

日時：令和5年（2023）年7月27日（木）15：30～17：00

場所：ホテルグランヴィア岡山 3階 クリスタル

○意見交換テーマ 「子どもを生み育てやすい地域の環境づくりに向けて」

<開会挨拶>

【知事】

- ・ 少子化の問題は以前から、これは大変だと、いろいろな方が指摘をされていたにも関わらず、結果を出せるような対策を取れないまま今に至っており、本来であれば、ベビーブーマージュニアが子どもを産もうか、結婚しようかと思っているときに、ちゃんとした環境を整えてあげることができていれば、ここまで大ごとにならなかったはずだ。
- ・ 男性が育休を取ると現場で頑張ってくれている人が3ヵ月程いなくなる、それで回る会社なんて滅多にないので、会社からすると、子どもは少ない方が当面ありがたいというような雰囲気があったのではないかと、反省するとともに、考えている。
- ・ ただ、我々も、根本的にここで考えを変えなければいけないと思っている。例えば、教育ほど短期的に成果の出ないものはないが、膨大な時間、資源を投入して当たり前のようにやっているにも関わらず、教育する元々の子どもたちを増やすことをここまでさぼってしまっていた。
- ・ 役所だけで頑張っても成果が出なかったこの少子化の問題を、皆様方のご協力をお借りして流れを変えたいと思っているので、ぜひ、それぞれの企業の行動を変えていきたい、皆様に変えていただきたいとお願いする。

<県の取組状況説明>

<意見交換>

【経済団体】

- ・ 少子化の原因を考えると、1番目は結婚した夫婦が持つ子どもの数が減少しているということ。そして、なぜそんなに少なくなったのかということを考えていけないといけない。

- ・ 2番目としては未婚化で、県の説明でもあったように、結婚の意思があるのは男性も女性も80%を超えているが、都市部では家賃が高いとか、地方では婚活ができていないとか、そういった理由で未婚化は進んでいる。
- ・ 3番目としては、非正規雇用の増加の問題がある。非正規雇用のパーセンテージは、1990年には20.2%だったのが2022年には36.9%になっているが、非正規社員の未婚率は78%で正規社員の2倍という倍率になっていて、こういうところが未婚の問題なのではないかと思っている。
- ・ 4番目に、将来不安で結婚や出産を躊躇させているということ。核家族化ということもあり孤立感ということが、ネット等で不安情報が拡散して行って、非常に社会が不安になっているような感じがあり、安心感を出していかないといけないと思っている。
- ・ 自分なりに対策を考えたが、1番目は、首都圏の一極集中の是正が必要だと思う。東京が人口トップになったのは第二次世界大戦後で、以前は全国、地方が違っていたのでよかったが、一極集中というのは改善していかなければいけない。
- ・ 2番目に、子育て環境の充実ということで、育休制度とか住宅環境とか教育の問題とかいろんな問題を具体的な施策でやっていかなければいけない。
- ・ 3番目は、企業誘致を図り、地方で稼ぐところがないといけない。東京のBtoBの銀行が、地震が少ないということと、人口の割には大学の数が多いので、人材が集まってくるということを期待されて本社機能を移してくると言われていた。こういった銀行とか企業をどんどん誘致していくことは非常に重要だと思う。
- ・ 4番目はリゾートで、北海道のスキーリゾートでは、外国人の労働者が入ってきて、人口が増えていっているということだが、岡山にとってみれば、瀬戸内海沿岸とか、島のリゾート化という面の開発は必要かと思う。
- ・ 5番目としては、自然と子どもが欲しいと思える空気感と、安心感の醸成ということと、非正規社員制度の見直しだ。労働人材の流動化をもっとしやすくしていく必要があると思っている。

【知事】

- ・ 少子化のおさらいとその対策もおっしゃっていただいたが、本当に起きていることはそういったことで、未婚化、それから結婚したカップルあたりの子どもの数も明らかに減っている。

- ・今すごく注目しているのが、不安の裏返しの安心感というところ、もしくは、当たり前、空気感ということだ。奈義町では、ノルマ達成みたいなのが2人ではなく、3人、4人もそんなに嫌ではなく踏み出せる雰囲気がある。
- ・これが当たり前というのは、ずいぶん人の行動を変えるところがあり、みんなで頑張ればそんなに困ったりしない、困らせないよという、後押しも大事で、制度どうのこうのでない景気づけという空気感、安心感の醸成というのは、我々世代の大事な役割のような気がして、お話を伺っていた。

【経済団体】

- ・2030年に向けて、持続可能な健やかさと豊かさを、日本一住みたいウェルビーイングのまち岡山へという提言をさせていただいたが、その中での基本的な考え方として、産業振興と教育の充実を強調させていただいている。
- ・ニッセイの基礎研究所人口動態シニアリサーチャーの講演の中で、人口の社会減少は、男性よりも女性で、特に就職の決まった女性の転出が多いことから起きているということが指摘されていて、どこへ転出するかというと、長年の課題である東京一極集中に相違はない。
- ・また、出生の問題は、原則として合計特殊出生率では計れないという主張もあり、県内の女性1人当たりの出生数を上げる努力をしても、県外に転出する女性の分までカバーできないことから、絶対値としては捉えられない。
- ・私達が考えている若者像と、現実的に若い人たちが考えている自分たちの結婚観が結構かけ離れてきているということも指摘されていて、理想の妻はという1987年の調査では、専業主婦あるいは再就職妻が理想であったが、2021年の調査では、仕事と家庭の両立妻が理想となった。
- ・こういうことを考えたとき、子どもたちが就職をしようと言ったときに地元で就職すべき産業がないということが最も痛手が大きい。子どもができて、そこから先どういう支援をするかというより、まず子どもができないという現実があるので、従って腰を据えて考えるのであれば、産業をどういうふうに育成していくかということが先に立たないと、大きい問題としては解決できないのではないかと思う。

【知事】

- ・昨日まで全国知事会の総会があり、一番大きなテーマが少子化対策だったが、少子化対策イコール子育て支援とは限らない、と言われるようになってきている。
- ・結婚しない人にいくら子育て支援のメニューがありますよと言っても、結婚できないということ、もしくは、そこに就職してくれるかどうか、そこに住んでくれるかどうかという、その前の段階からちゃんと考えないと本当に絵に描いた餅になる。
- ・進学就職で東京大阪に行かれてしまった場合、我々にとっても、日本全体にとっても、確率的に予想出生数が下がってしまうということなので、何とか地元に引き留める努力をする、女性や若い人から見て就職したい産業、もしくは住みたい環境を整えることは本当に大事なことだと思っている。

【経済団体】

- ・雇用情勢の数字は持ち直しつつあり、喜ばしいことではあるが、他方で、なかなか若い人が採れない、あるいは期待した人がすぐ辞めてしまうとの声が聞かれる。
- ・人口のグラフを拝見して一つはっきりしているのは、やっと生まれた赤ちゃんが20年立たないと二十歳にならない。社会参加されるころに、ますます大変なことになっていると感じさせられる。
- ・特に働く若い母親の雇用環境の整備が必要ということで、専任コンサルタントが大企業を中心に年間10社程度訪問して、国の次世代育成支援対策推進法に関する行動計画策定に対する情報提供、相談等に当たっている。
- ・その中で聞こえている例として、男性社員から産後パパ育休を取りたいという希望があり、総務担当に働きやすい職場づくりの事例集を渡して説明した。あるいは、3歳以降も短時間勤務を希望する社員がいるので、社内規定ができるまで個別対応を進めた企業もあるが、結局は、こういう一つ一つの地道な積み上げをしていくしかないのではないか。
- ・自分の会社の直近の例だと、結婚して子どもは欲しいけど長いこと恵まれなかった中で、結果的に第一子が生まれて、あるいは近々生まれそうということが相次いでいて、今まではそういうことはプライバシーのことだから会社側では関わっていなかったが、会社の方としても例えば資金的な支援とか、そういうことのための休暇制度を作るとか、応援できないだろうか、工夫の仕方はないかと模索する、要するにそういうことの積み上げが必要だと思っている。

【知事】

- ・ 人事や、賃金、どういう形で雇用されているかということは、それぞれ雇用されている人が子どもを産んでも大丈夫そうだという判断をするときに非常に大きな要素になるので、いろいろ協力しながら、岡山のムードを上げていきたい。
- ・ 働く人からすると、仕事が増えるのはいいことであるが、今頑張って操業されている会社からすると、人が集まらないことになる。いい仕事があって地元の人が残ってくれて、場合によっては外から入ってきてくれて、いい形で人手不足が解消するのが本筋である。
- ・ 人口のグラフをもう一度見ていただいて、コロナのこともあるが、この数年の減り方の早いことに本当に恐怖を覚えている。要因として、一つはコロナで外に出られず、出会いがないとやはり結婚が減る。また、より深刻なのが、子どもを産める年齢層の女性が全国的にも減っているところにかけて、合計特殊出生率が何%かということなので、状況が悪くなっている。
- ・ 子どもを産める年齢の女性を本当に我々大事に考えて、お話の会社、非常に従業員のことを思っている工夫をされていると、そういった会社が1社でも、できるだけ早く増えるようにしていきたいと思っている。

【経済団体】

- ・ 今いる子どもたちが、生き生きと学び成長できて、生活でき、そして学習できる環境がある。ここで生きたい、暮らしたい、それが自分の可能性を生かして幸せに繋がるという実感を子どものうちから持っている。子どもたちの視点からこの問題を考えていく必要性があると思っている。
- ・ SDGsが学校でもいろいろ取り上げられているが、これはまさに次の世代を含め全ての人々が人間らしく生きることができる、持続可能な社会をつくることなので、子どもたちにとっても共有できる目標であり、子どもと一緒にこの地域をどうするかということを議論していくということが必要だと思う。
- ・ いろいろな不安というのは、地域のコミュニティがどんどん薄れて、子育ては自分の家庭でということに対して、行政の支援はあっても、地域全体で支えてくれるということが減ってきているというところではないか。

- ・地域を元気にするには、地域の大人と若者が一緒に取り組むことでいろいろな繋がりができてくる。人と人の繋がりが地域にあるということが安心感であり、ここで子育てしようかなということに繋がってくるのではないかと、高校生と実際に話をする中で感じた。
- ・今まで子どもというのは守らなければいけないとか、まだまだ力不足だということでは彼らの意見を聞いてこなかったが、おそらく中学生、高校生あたりにこの課題をぶつけて、問題提起をすると、かなり真剣に考えて素晴らしいアイデアが出てくる気がしている。社会に開かれた教育活動というのは、地域企業と行政と一緒にしながら、ある意味で子どもたちを主役にしながら、この地域をどうするか、そのために我々がどうお伝えするかということが大切なのだと思う。

【知事】

- ・我々は哺乳類で猿系の動物から進化した人間なので、大体群れでまとめて子育てをしているところは最近までずっと続き、子どもを産んで何かあっても周りがみんなサポートしていたのが、よかれということで、会社はあまりプライベートに立ち入らない、家族の中でも息子夫婦には関わらない、ご近所さんにもあまり煩わされない、幸せなプライベート空間ができたが、それがワンオペ育児を生む土壌になってしまっている。
- ・奈義町で私が一番感銘を受けたのが、決まった場所におじいちゃんおばあちゃんがふらっとくると、そこに親が子どもを置くと、おじいちゃんおばあちゃんが時々遊んだりして、それぞれを切り分けて税金使って世話をするのではなくて、お互いがお互いの世話をしながらハッピーでいる。
- ・昔は行政が絡まなくても、勝手にみんなでやっていたことを、行政がルールを作って、場所を作って、いろいろ綺麗に切り分ける近代的なところがこの状況を生んだとするならば、もう少し、以前のやり方を参考にしながら、世代を超えて関わり合っていくところに、この突破口が見えるのではないかと私自身も思っている。

【経済団体】

- ・少子化対策として、企業としては、子どもを育てやすい職場風土の醸成とか制度設計というのもしっかりやっていきたいが、一方で、日本の将来を左右する子どもた

ちの貧困を解決しないで、将来に向けた選択、将来として活躍できる環境整備をしていかないと、少子化の対応ができるかということこれは難しい。

- ・最近、チャイルドペナルティという言葉が注目されているが、子どもを育てることによって社会的経済的不利を受けることを意味している。出産後の給与が増えていないことがデータで示されており、また、出産とともに非正規化しているということがあって、こういうことへの対策を企業内でしっかりやらないと、なかなか女性の活躍が難しいのかなという現状の数字だと思う。
- ・未来に対して明るい展望が持てないということが何となく全体の雰囲気になっていて、安心して生きていける社会環境を目指すということで、経済の潜在力の向上とか、中期的な成長期待の向上が最も有効な少子化対策ではないかと思う。この点から、単に少子化対策を実施するだけではなくて、DXとか、GX、インバウンド戦略とか、一極集中への対応、こういった様々な成長戦略を同時に進行することによって、初めて少子化対策は意味を持つのかなという気がする。
- ・あらゆる業界で人材不足が言われているが、人材が流動化することによって、より社会全体として成長できる産業にシフトしていくことがとても大事だ。そういった事例として、東京都の成長産業人材雇用支援事業という取組があり、これは派遣社員としてトライアル就業するが、その適性を2ヶ月間で確かめ、都がその支援を行うもの。ぜひこういう制度、人材の流動化という観点で取り組んでいただければと思う。

【知事】

- ・お金というのもあるが、あえてそういうトライアル制度で試すことによって、本来は試用期間でできることになっているが、実際にはなかなか使いづらいお試し採用というのが本当に明示されている形なので試すことができる。
- ・チャイルドペナルティというのは本当にそうで、昔は、子どもがいないと労働力という面でも、老後の保障という面でも、結局子どもが担っていたわけで、子どもを育てるコストは非常に安く、産まない方がどう見たって損で、病気のこともあるからたくさん産んでおかなければというものが、今、社会保障が整備をされて、子どもがいる、いないに関わらずもらえる。子どもだからこき使えるわけでもないし、子どもを教育させる、育てるコストがどんどん高くなる上に、自分自身の働きやす

さにも影響されて、そこら辺で遊んどいてくれればということでは全然なくなってきている。

- ・ 本当に少子化が進む方向にいろんな圧力が、インセンティブが向かってしまっている、それを少しでもリアリティに感じなくて済むようにすることは、本当に国を挙げて、政府も県庁も市役所も考えていかなければいけないことだと思っており、どうみんなで覚悟、制度を決めて、取り入れるかにかかっていると思う。

【経済団体】

- ・ 数年前にこの会議で私、女性が1人もいないということを申し上げたが、今日はだいぶ変わっているなというところを感じた。井原市で開催された、知事と一緒に生き活きトークで、ユニークな技術を持ち、女性社員比率の高い会社が出席されたが、女性が活躍できる、女性の声を取り上げる社長さんの方針だと聞いており、やはり、そういうことが求められているのではないかと思っている。
- ・ 地域の奉仕活動という中で、子ども食堂というのが非常に増えているが、実際には女性が多く活躍しておられる奉仕活動なわけで、そういったことが安心に繋がっていくのではないか。女性が活躍できる場で、それなりの収入を得られるということが求められているのではないかと思う。
- ・ 日産のゴーン元会長のときに、購買部門のトップを女性がされていたが、経験が非常に豊富で、技術競争力というところで、企業規模だけではないというようなことを言われたこともあり、やはり力がある人だなと感じたわけで、実力がある女性の登用という我々にはちょっと欠けているところが、外国人にはあるという思いを持っており、そういったことも取り入れることが重要だと感じている。

【知事】

- ・ 育てるのは男性もできるが、女性しか子どもを産めないのも、その女性に産もう、産みたいと思っていただくためには、女性に聞く、女性の思いがわかる人にアイデアを出してもらい、実行する権限を持ってもらうというのは非常に真っ当なことで、我々日本の社会よりも早い段階で女性の社会進出が進んだ国、社会から学ぶことは多々あるような気がしている。
- ・ 子ども食堂は地域での子育ての一環であり、今の日本で餓死するのはよほどのことで、別に栄養は何らかの形で取れるが、カロリーどうのこうのではなく、ワンオ

ぺ、もしくは孤独の中での子育てでなく、みんなでこの子を育てているという、社会全体で子育てに関わっている実感を、子どももその親御さんも持てる場所なのかなと、私自身は理解している。

- ・社会のために、従業員のために良いことをするけれども、その会社にとってペナルティが続くようだとなかなか難しい。確かに、短期的にはどうだろうかということでも、この取り組みから5年10年経って振り返ってみると、他のそういったことに背を向けていた会社よりも我々の方が優秀な人材が採れて、ずいぶん会社の雰囲気良くなって、お客様からの評判が良くなってきているというところを目指したいと思っている。

【経済団体】

- ・若い世代が地域に魅力を感じてもらうためには、事業者として、施設や店舗の整備や機器の導入を実情にあった形に変革していくことが必要と考えており、外観や内装の美化、清潔さの維持であるとか、子どもや家族にとっても安心感ある空間作りを心がけるなど、様々な取り組みが考えられる。
- ・コミュニティ創出という部分においては、従来から我々の青年部や女性部が大きな役割を果たしてきたところであり、夏祭りやふるさとまつりなどへの地域交流イベントなど、子どもたちに地域で頑張っている事業者に関心を持ってもらう取り組みや、学校への出前授業などを開催しているところ。
- ・生産年齢人口の減少が著しいエリアの事業者にとっては、労働力の確保が喫緊の課題で、苦しい経営環境の中、従業員の働き方改革や、賃金アップに必死に取り組んでいる。特にこれからは、子育てをする従業員への柔軟な労働条件や、フレッシュな勤務時間の提供であるとか、子育て支援制度や、福利厚生の実充に組み込む必要があり、こういった面での支援策を講じていただけるとさらに推進しやすくなる。
- ・奈義町のお話が出たが、これはおそらく、10年ぐらい前からいろんな事の小さな取り組みが今、花開いていると思っている。奈義町の夏祭りでは、本当にどこから集まってくるかわからないぐらい、若者がたくさん集まってくる。団地の造成をしても、1年もしたら新しい家がどんどん建っており、何か仲間意識というか、若者たちの悩みは若者たちが共有して、いろんなことを進めており、そういったことがいい方に回っていったのではないかと聞いている。

【知事】

- ・ いろんな活動を普段からしていただき、また大変なときにも大車輪で頑張っていたいており助かっているが、生活に近いだけに地域がどういう雰囲気になるのか気をつけながら、皆さんで指導というか、お互い声掛け合っていたりかというの
はすごく大きい。
- ・ 多くの人にとって、1人でいるのはあんまり居心地のいい状態じゃなくて、似たような仲間がいるとすごくいろいろやりやすいし、なんか楽しそうにしているところに
実際行ってみると、面白かったりする。仲間がいる、連帯している、一緒にやっ
ている感じを作れるかどうかが大事だと思う。
- ・ うまくいっているところには、目立っているか隠れているかは別として、非常に寛
容な心を持った大人がいる。最初は小さくてもいいが、それぞれ取り組みをしてい
ただく、我々そういうご支援はできるが、役所が最初のものを作るのは苦手なの
で、いい火を付ける最初の数人というところ、これからもそれぞれの地域でよろし
くお願いしたい。

<閉会挨拶>

【経済団体】

- ・ 私も吉備高原に関わらせていただいているが、本当に住環境が良くて、非常に安く
て環境が素晴らしいところで、よそから移住して若い家族が来られて、やっぱり稼
ぐところ、楽しむところ、教育の場、これを作っていないといけないと思ってい
る。
- ・ 少子化なので将来不安だということだけでは済まされない。我々が、明るい日本に
していかなければならない。今日、まさにそう思わせていただいたので、今後とも
皆さんとともに頑張っていきたい。

【知事】

- ・ 何度も申し上げたが、この少子化、地域の未来をかなりの程度で既定してしまう大
きな問題については、役所だけで、本当に長く放置してしまったに近い問題を解決
することは、ほぼ不可能だと思っており、皆様方の協力が必要不可欠だ。
- ・ 最後の場を借りて、宣伝をもう一度させていただきたいが、皆様方の会員企業の皆
さんに、岡山子育て応援宣言企業に1社でも多くなっていたらいいし、縁むすびネ

ットの入会料、今年度に限り無料になっているので、会員企業の皆様の社員の方に1人でも多く入っていただきたい。皆様方の会報でも紹介していただいて、その総会か何かの会合の場で、皆様がこの二つのことに言及していただくと、影響が大きいなと思っている。

- ・私は、縁むすびネットだけでこの問題を解決しようと思っているわけではない。とにかく、早め早めに、そろそろだと思っていただくためにも、大事なツールとなるわけであり、よろしく願いしたい。

以上